

竜舞。プラスチックを子会社に 技術力アップと生産力拡大

天昇電気

天昇電気工業(本社・東京都町田市南町田5-1-65、石川忠彦社長)は、アルビオン(株)(RPA)から自動車、家電

・OA機器などの射出成形加工を主体とする竜舞プラスチック(株)の全株式を取得し、子会社化することで3月19日に基本合意したところのほど発表した。契約締結日は5月25日、株式譲渡実行日は7月1日の予定。

天昇電気は竜舞プラスチックをグループ化することにより、中空・軽量化技術などの技術力向上、販売チャネルの多様化及び生産・物流の最適化により、事業基盤・規模を一段と拡大する。

天昇電気は、プラスチック成形加工の草分け的存在で、1936年(昭和11年)の創業以来、プラスチックの創業以来、プラスチック成形品メーカーとして自動車部品、家電・OA機器、電性コンテナ「デンパコE」Dシリーズ、帯電防止コンテナ「デンパコE」Dシリーズ、帯電防止コンテナ「デンパコE」Dシリーズなどの自社オリジナル製品を歴史のなかで様々なプラスチック「ス」などの自社オリジナル

チックの成形加工を手掛け、培われた技術力により、中空・軽量化技術、ベースに、その前段階の金型事業、後工程の塗装などの加工工程へも事業領域を拡げている。

特に同社は、雨水貯留タンク、透施設「テンレイン・スクラム」、感染性医療廃棄物容器「ミッペール」、導電性プリント基板収納ラック「テンスートラック」、導電性コンテナ「デンパコE」などの自社オリジナル製品を展開している。

一方、竜舞プラスチックは、RPA東プラグループの射出成形加工分野を担う主力工場として1968年事業を開始、素材研究支援から加工技術開発、製品設計までを手掛けながらお客様のニーズに応え、2019年4月に竜舞プラスチックとして独立した。

同社はAGI(ガスアシスト成形加工技術)、H2M(製品内部へのガス注入による中空体作成技術)、RFM(基本特許を有する3次元屈曲パイプ射出成形技術)、DSI(複雑な中空形状を可能にする成形技術)、WIM(大きさ・形状にとらわれず部品を内蔵できる中空成形技術)などの中空・軽量化技術、またH&CやGPIなどの無塗装・高外観技術を駆使した射出成形技術を用い、精密で複雑な製品づくりを行っている。

主生産品は、自動車・バイク用冷却パイプ、液晶テレビ前面パネル、大型プリンターベース、複写機用カバー・部品、携帯電話・ノートパソコン等の筐体、太陽光発電用パワーコンディショナー前面パネル、自動券売機操作パネル、自動改札機上部カバー、水処理装置用部材、医療点滴用コネクタ、医療用レントゲンカセットなど。

【竜舞プラスチックの概要】所在地：群馬県太田市龍舞町535▽代表者：代表取締役社長 大西誠▽資本金：3億2千万円▽株主数：100名(アルビオン東プラ(10%)▽事業内容：射出成形品および関連加工品の製造・販売▽売上高：4億6,300万円(2020年3

月期)。

4月に竜舞プラスチックと